

第4章 章末問題解答

1. つぎにカッコにはいる経済学の用語、あるいは数字を答えなさい。

- ・国民総支出は、消費、()、政府支出、輸出を加え、輸入を差し引いたものである。
- ・国内所得とは国内総生産から減価償却と()を差し引き、補助金を加えた額である。
- ・実質経済成長率とは名目経済成長率から()を差し引いたものである。
- ・限界消費性向が0.6のとき、乗数は()になる。
- ・公共投資と減税の乗数効果を比較すると()のほうがより大きい。
- ・生産物市場の需要と供給が均衡する国民所得と利子率の組み合わせを図示した曲線は()曲線とよばれる。
- ・貨幣需要は、貨幣の取引需要と()需要から構成されている。
- ・民間貯蓄・投資ギャップと財政収支の合計は()に等しくなる。
- ・外国に対する無償の援助は、経常収支の()の項目に記載される。
- ・1897年の貨幣法によって、1ドルは()円と交換されることが決められた。
- ・第2次大戦後、1971年までは、固定相場制がとられ、1ドルは()円と交換された。
- ・IMF協定を中心とする戦後の国際通貨体制のことを1944年に会議が開催された村の名前をとって()体制とよぶ。
- ・資産価格が価格上昇の期待によって上昇することを説明した理論は、()理論とよばれる。
- ・ドルや円を決められた価格で取引できる権利のことを()とよぶ。
- ・銀行や大口の個人投資家から私的に資金を集め、デリバティブなどを駆使して、その資金を運用し高い収益を得ている金融機関のことを()とよぶ。

投資	税金	物価上昇率	2.5
公共投資	IS	投機的	経常収支
経常移転収支	2	360	ブレトン・ウッズ
バブル	オプション	ヘッジファンド	

2. 国民所得 Y が消費 C 、投資 I 、政府支出 G から構成されていて、消費関数が $C = 0.4Y + 100$ 、投資が 100、政府支出が 100 とします。このとき以下の問いに答えなさい。

- 問(1) 需要と供給が等しくなる国民所得を求めなさい。
- 問(2) 政府が政府支出 G を 10 増加しました。このとき国民所得はどれだけ増加しますか。
- 問(3) 乗数を求めなさい。

問(1) 生産物市場の需要と供給が等しくなる条件は、 $Y = C + I + G$ です。この式に、消費関数 $C = 0.4Y + 100$ 、投資 $I = 100$ 、政府支出 $G = 100$ を代入すると、 $Y = 0.4Y + 300$ となり、 $Y = 500$ が得られます。

問(2) G を $G = 100$ から $G = 110$ に変更すると $Y = 310 \div 0.6 = 516.67$ です。

問(3) 乗数は $1/(1 - c) = 1/0.6 = 1.67$ です。

3. いま、投資を 10 兆円増加させたときに、国民所得が 50 兆円増加しました。このときの限界

消費性向はいくらか？

乗数は5(50兆円÷10兆円)です。限界消費性向 c と乗数のあいだには、乗数 = $1/(1 - c)$ という関係がありますから、限界消費性向は0.8になります。

4. 政府支出が70兆円増加し、減税を17.5兆円行いました。このとき、国民所得はどれだけ増加しますか。ただし、 $Y = C + I + G$ 、 $C = 0.8(Y - T) + 50$ 、 $T = 0.1Y + 20$ とします。(Y : 国民所得、 C : 消費、 I : 投資、 G : 政府支出、 T : 租税)

まず、政府支出増加の効果を見ていきましょう。 $Y = C + I + G$ に消費関数、税金の式を代入すると

$$Y = 0.8(Y - T) + 50 + I + G = 0.8(Y - 0.1Y - 20) + I + G$$

が得られ、この式を変形すると

$$0.28Y = 34 + I + G$$

となります。したがって、 G が70兆円増えると、国民所得は、その $1 \div 0.28$ 倍だけ、すなわち $70 \div 0.28 = 250$ だけ増加します。

つぎに減税の効果を見ていきましょう。 $Y = C + I + G$ に消費関数を代入すると、

$$Y = 0.8(Y - T) + 50 + I + G$$

となり、この式から、

$$Y = -4T + 5(50 + I + G)$$

が得られます。したがって、減税を17.5兆円行なうと、国民所得はその4倍の70兆円増加します。

最後に、政府支出の増加と減税の効果の合計は、325兆円になります。

5. つぎのようなマクロ経済モデルを仮定します。

$$C = 60 + 0.6Y_D$$

$$L_1 = 0.4Y$$

$$Y_D = Y - T$$

$$L_2 = 400 - 50r$$

$$I = 300 - 50r$$

$$M_S = 400$$

$$T = 0.2Y$$

$$P = 1$$

$$G = 100$$

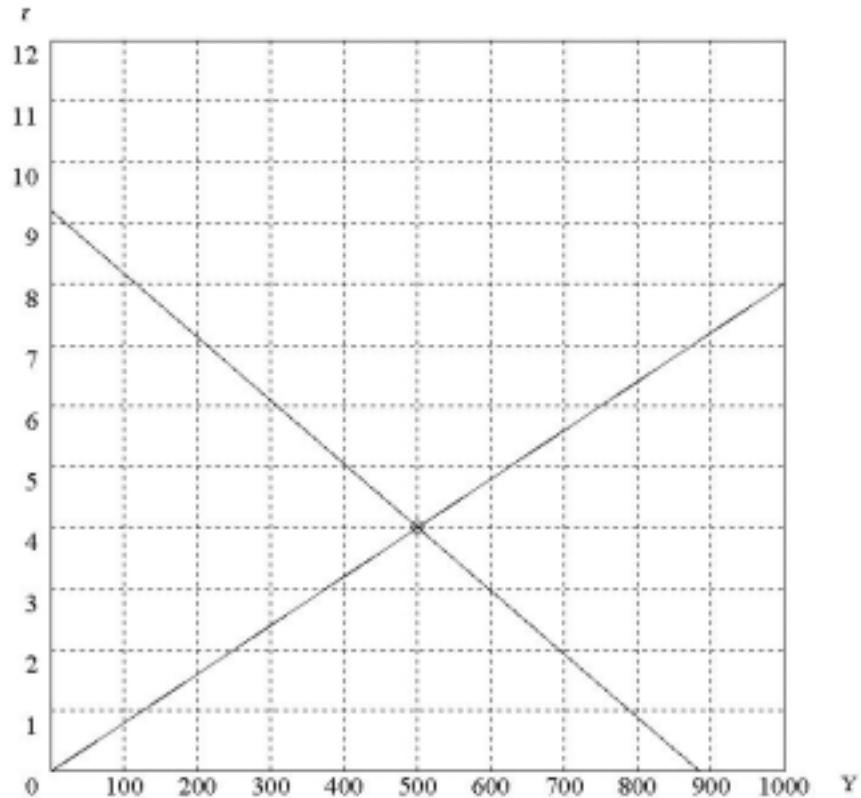
ただし、 C は消費、 Y は国民所得、 Y_D は可処分所得、 L_1 は貨幣の取引需要、 L_2 は貨幣の投機的需要、 I は投資、 r は利子率、 M_S は貨幣供給量、 T は税金、 G は政府支出、 P は物価水準です。このとき以下の問に答えなさい。

(1) IS 曲線を計算し、図示しなさい。

生産物市場の需要と供給が一致する条件 $Y = C + I + G$ に消費関数、投資関数を代入すると

$$0.52Y + 50r = 460$$

が得られます。これが IS 曲線です。図示すると以下ようになります。



(2) LM 曲線を計算し、図示しなさい。

貨幣市場の需要と供給が一致する条件 $M_s/P = L_1 + L_2$ に貨幣の取引需要、貨幣の投機的需要を代入すると

$$0.4Y - 50r = 0$$

が得られます。これが LM 曲線です。

(3) 均衡国民所得、均衡利子率（商品市場、貨幣市場の需要と供給を一致させる国民所得と利子率）もとめなさい。

IS 曲線と LM 曲線を連立させて解くと、 $Y = 500$ 、 $r = 4$ となります。

(4) G を 110 に増やしたときの国民所得 Y 、利子率 r をもとめなさい。

政府支出を増加させると IS 曲線は、 $0.52Y + 50r = 470$ に変化します。この式と LM 曲線を連立させて解くと $Y = 510.87$ 、 $r = 4.09$ が得られます。

(5) 貨幣供給量 M_s を 400 から 420 に増加したときの Y と r をもとめなさい。ただし、 G は 100 とします。

貨幣供給量を 20 増加させると、 LM 曲線は、 $0.4Y - 50r = 20$ になります。この式と IS 曲線を連立させると $Y = 521.74$ 、 $r = 3.77$ が得られます。

6. この章で勉強した基礎的なマクロ経済学の知識をもとに、不況から脱出するための経済政策として、どのような政策が考えられるか説明しなさい。

財政政策としては、政府支出の増加、減税があります。金融政策としては、貨幣供給量の増加、公定歩合の引き下げなどの政策が考えられます。

財政政策の問題点としては、税収が少ない不況下では、財政赤字が拡大することです。また、企業や消費者が不況が将来も継続すると予測するときには、投資や消費を増やさないために、財政政策の効果が小さくなることが考えられます。

金融緩和政策に関しては、インフレが発生する可能性があります。企業が資金を調達しやすくすることによって景気を回復させるという間節的な政策なので、企業が将来に悲観的なときには、効果が小さくなります。